

デイのアクティビティ

「メニュー選択式」で予防に効果

京都府モデル事業報告書

京都府はこのほど、デイサービスで実施する介護予防のアクティビティのあり方について、モデル事業を行った結果を報告書にまとめた。アクティビティは運動器の機能向上などの他の予防メニューのよつにマニュアルはなく、予防の効果検証の方法なども確立されていない。府では、集団で一つのメニューに取り組みではなく、なるべく多くのメニューを用意し、利用者自身に選択してもらいながら少人数単位で活動する方法を提示。府内の三つの事業所で試行的に取り組んだところ、利用者の活動意欲や心身機能が向上し、自宅でも活動を継続する人も増えたとしている。府では今後「京都式」を伝える「デイサービス」として多くの事業所に取組んでもらいたい考えだ。

モデル事業は昨年十一月から二月にかけて府内の三カ所のデイサービス事業所で実施した。利用者は一六九人。ゲーム・健康、もの

ろ、五六・一%が小グループ活動と回答。意欲の向上が確認されたほか、デイで行ったものへの意欲の活動を自宅でも自分で行いたい利用者が実施前に比べて五割程度増えた。また、心身機能の面でも、特に軽度者では全その項目で向上の成果が見られたとしている。利用者のやりがいや楽しさを重視し、一人ひとりのニーズに対応するデイのあり方が介護予防効果も高めた」と結論付けている。

さらに、職員側にも「利用者の多様で隠れがちなニーズを把握できた」「得意でないところが利用者を通小評価していたことに気づいた」など、一人ひとりと深くかかわる姿勢が芽生え、個別ケアに対する認識が高まったと分析。世代の近い

元気高齢者が参加すること、介護予防について関心を深めるなど、広く予防の効果で会話に弾みがついたり、めたボランティアも大半に「が得られた」としている。